

平成27年10月2日

白川改修・立野ダム建設促進期成会
会長 熊本市長 大西一史 様
菊陽町長 後藤三雄 様
大津町長 家入 勲 様
南阿蘇村長 長野敏也 様
熊本県知事 蒲島郁夫 様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康
立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 代表 田上辰也
ダムによらない治水・利水を考える県議の会 代表 西 聖一
代表連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

立野ダム本体工事の早期着工要望への抗議文

白川流域4市町村（熊本市、菊陽町、大津町、南阿蘇村）と熊本県でつくる「白川改修・立野ダム建設促進期成会」は8月20日、国土交通省に白川改修などを求める要望書を提出しました。

要望書の中で、激甚災害対策特別緊急事業区間に指定されている明午橋～みらい大橋間の事業推進、未改修の中流域（大津、菊陽両町）の新規事業化など、私達が繰り返し求めてきた白川改修の促進を要望された点を高く評価します。しかし、同要望の中で立野ダムの本体工事の早期着工を要望されたことに対し、強く抗議します。

立野ダムは、熊本市中心部を流れる白川の上流、阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野峡谷に国土交通省が計画した、高さ90mの「穴あきダム」です。立野ダムは洪水調節だけを目的としたダムですが、洪水時にはダム下部に開いた3つの穴（高さ5m×幅5m）が流木などでふさがり、洪水調節不能になるのは明らかです。熊本市など下流の安全を守るどころか、危険をもたらすダム計画です。

また、昨年9月23日、阿蘇地域は世界ジオパークに認定されましたが、世界ジオパークは4年毎に再審査があります。重要なジオサイトである立野峡谷に高さ90m、幅200mの巨大ダムができれば、再審査で認定取り消しになる恐れが大きいと考えます。

そのようなダム建設に対する不安や質問を国土交通省に投げかけても、担当者は「上司に伝える」と繰り返すばかりです。地元自治体に意見を述べても、「国の事業だから地元は関与できない」との見解です。

私達はこれまで貴職に、地域住民に対する立野ダム説明会を開催するよう国土交通省に対し働きかけることを再三再四要望してきました。しかし、国土交通省は立野ダムの説明会を一度も開いたことはありません。公共事業は本来、住民の税金で、住民のために行われるべきものです。にもかかわらず、住民に説明責任も果たさず、責任の所在さえ分からない事業は、「公共事業」とは呼べません。

新国立競技場の建設計画が「白紙」となりましたが、誰も責任をとらない無責任体質が問題になっています。新国立競技場の費用の件で、国は東京都に500億円出すように頼んでいることが問題になりましたが、立野ダムの事業費は平成24年時点で917億円。熊本県の負担はその3割、275億円（県民一人当たり1万5000円）にもなることは、ほとんど知られていません。県民に大きな負担を強いる点からも、立野ダムの本体工事の早期着工を要望されたことに対し強く抗議するとともに、下記2点について国土交通省に要請することを再度、強く求めます。

記

1. 白川流域の市町村ごと、熊本市にあつては白川沿いの中学校区ごとに立野ダム事業に関する説明会を開催することを、国土交通省に要請すること。その際、住民の質問については真摯に回答し、住民の意見を十分に聞くこと。
2. 上記説明会が開催され、国が立野ダム事業についての説明責任を果たすまでは、立野ダムの転流工事（仮排水路トンネル工事）を中止するように、国土交通省に要請すること。 以上